



芦屋「九条の会」ニュース

発行責任者：片岡隆

連絡先 090-7118-2312

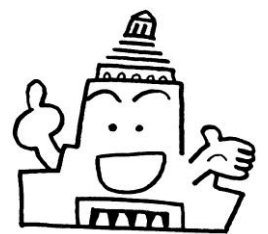
<http://ashiya9.web.fc2.com/>

『桜を見る会』

「森友・加計」にも懲りず 倫理崩壊も極まれり

安倍首相の通算在職日数が 2019 年 11 月 20 日で桂太郎氏を抜き単独で憲政史上最長となったとのこと。しかし、「桜を見る会」の私物化や公職選挙法違反の疑惑が沸騰し、安倍政権と与党に対する批判が高まっています。この問題を「小さなこと」として片付けようとする意見も見られますが、まったくの認識不足です。国民主権、民主主義の根幹にかかわる問題であり、安保法制を強行制定した政権による改憲が日本の平和と安全にとって極めて危険であることを明示する大問題です。「いつまでやっているのだ」の言説は、そうではなく、「事実を早く明らかにせよ」と首相ら疑惑の渦中にある人間に向けるべきものです。

国民・市民の血税により開催される公的行事を、首相はじめ政権与党の政治家たちが私物化していることや公職選挙法違反が疑われることも問題です。しかし、日本国憲法の平和・人権条項の維持と実現を大切にして活動している芦屋「九条の会」として、とくに強調したいことは、現政権の下では国民が事実・真実を知る機会を奪われていること、その危うさです。招待者名簿の「1 年未満での廃棄」（しかも、内閣府に資料請求された 5 月 9 日当日に）、「格安」前夜祭の「明細書不在」など、都合が悪い資料は「廃棄」「改ざん」「隠ぺい」し、「挨拶や接遇は行おうが取りまとめ等には関与していない」という詭弁、など「森友・加計」と根っこは同じ。国民には事実がわからないままでの追及逃げ切り、忘却を図る。最近の出来事を振り返っても、南スーダン PKO 日報、加計学園学部新設に関する総理ご意向文書、裁量労働制データの調査票、等々、この政権は事実隠ぺい政権と言わざるを得ません。



事実隠ぺい政権による改憲策動を許さない

この政権が、2014 年 7 月に集団的自衛権の行使容認を閣議決定し、翌年、憲法違反の安保法制を強行制定したのです。同法制の発動自体認められませんが、百歩譲って発動するとしても、政府が「アメリカの艦船が A 国から攻撃を受けたので、自衛隊が参戦する」と決定した時、国民は「A 国から攻撃を受けた」事実をどのようにして把握するのでしょうか。政府やメディアが報じること以外に真相を確認することはほぼ不可能です。疑いはしても否定することはできません。したがって、政府が国民に事実を明らかにすることは国民主権、民主主義の大前提です。「戦争は嘘から始まる」。南満州鉄道爆破事件（1931 年 9 月 18 日）やイラク爆撃・戦争（2003 年 3 月開始）をはじめとする痛恨の歴史を再び繰り返すまい。「桜を見る会」は「森友・加計」などと共に、平和と民主主義の根幹にかかわる大問題です。（久保富三夫）